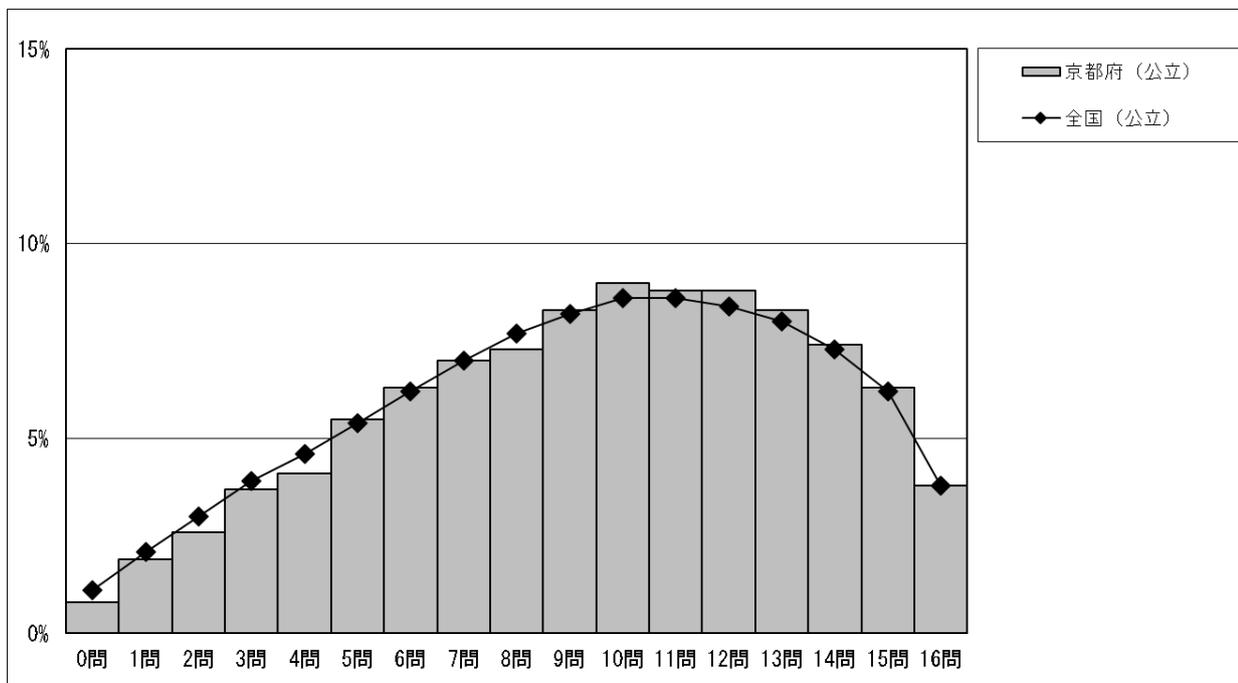


Ⅲ 京都府における算数・数学の状況と 改善のポイント

*すべて京都市を除く京都府のデータです

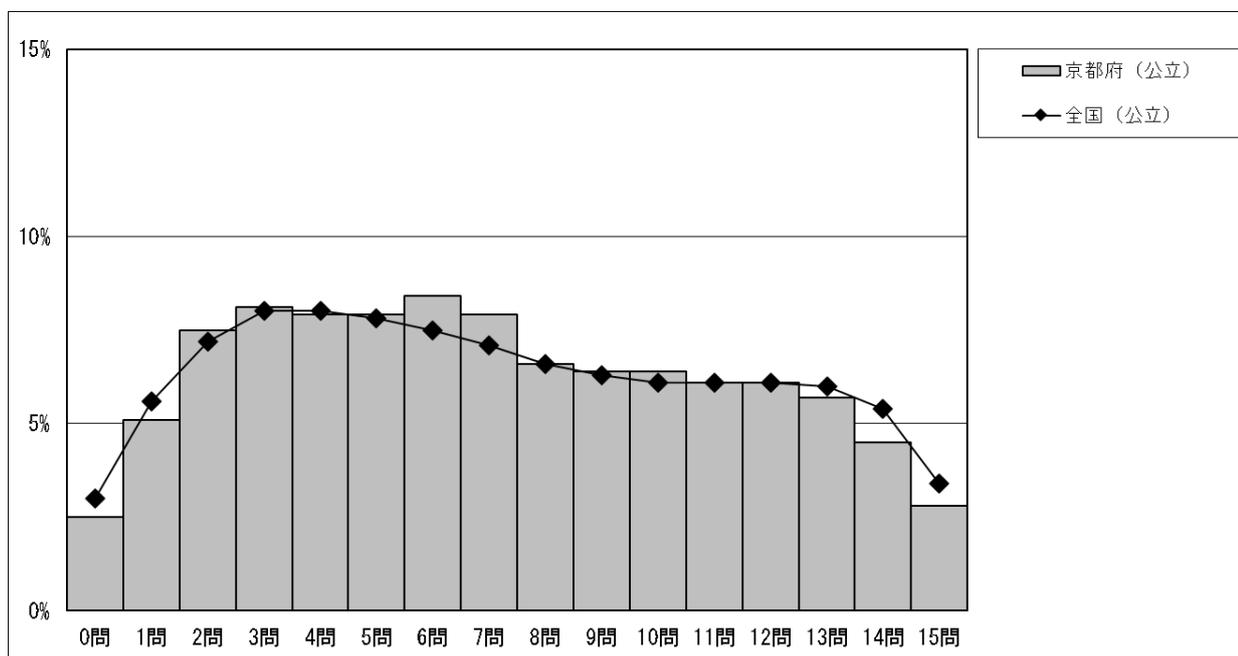
1 小学校算数の概要

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,781	9.4 / 16	59	10.0	4.0
全 国	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0



2 中学校数学の概要

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
京都府	8,541	7.2 / 15	48	7.0	4.1
全 国	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2



3 設問別調査結果 [算数]

小学校 [算数]

京都市を除く京都府一児童（公立）

集計結果

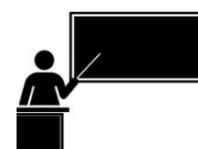
	児童数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,781	194	65
全国（公立）	936,399	18,265	63.4

◇正答率が全国平均を上回っている設問は9問である。無解答率は、全ての問題において全国平均よりも低い。

◆正答率が6割を下回る設問が7問ある。うち、2問は全国正答率も下回っている。

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A 数と計算	63.2	62.3
	B 図形	57.4	56.2
	C 測定	58.0	54.8
	C 変化と関係	58.2	57.5
	D データの活用	63.0	62.6
評価の観点	知識・技能	66.4	65.5
	思考・判断・表現	49.2	48.3
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	67.2	67.2
	短答式	65.5	64.0
	記述式	36.4	34.9



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1 (1)	2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の全国のブロッコリーの出荷量の約何倍かを、棒グラフから読み取って選ぶ	数と計算 データの活用	77.9	78.7	0.3	0.4
1 (2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	データの活用	32.2	31.0	0.8	0.9
1 (3)	示された表から、「春だいこん」や「秋冬だいこん」より「夏だいこん」の出荷量が多い都道府県を選ぶ	データの活用	70.5	71.6	3.1	3.5
1 (4)	示された資料から、必要な情報を選び、ピーマン1個とブロッコリー4個の重さを求める式と答えを書く	数と計算	76.3	74.5	1.8	2.6
2 (1)	示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ	図形	60.0	58.3	0.9	1.2
2 (2)	方眼上の五つの図形の中から、台形を選ぶ	図形	53.7	50.2	0.5	0.7
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ	図形	78.6	79.3	0.7	1.0
2 (4)	五角形の面積を求めるために五角形を二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く	図形	37.1	37.0	1.8	2.7
3 (1)	0.4 + 0.05について、整数の加法で考えるときの共通する単位を書く	数と計算	72.7	74.1	2.1	2.8
3 (2)	$\frac{3}{4} + \frac{2}{3}$ について、共通する単位分数と、 $\frac{3}{4}$ と $\frac{2}{3}$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く	数と計算	24.1	23.0	12.4	15.7
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数と計算	32.7	35.0	6.2	7.8
3 (4)	$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$ を計算する	数と計算	87.1	81.3	2.5	4.1
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を選ぶ	数と計算 変化と関係 データの活用	82.5	82.8	2.1	2.6
4 (2)	使いかけのハンドソープがあと何プッシュすることができるのかを調べるために、必要な事柄を判断し、求め方を書く	式と計算 測定 変化と関係 データの活用	52.0	48.7	2.3	3.4
4 (3)	はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む	測定	64.1	60.9	3.4	4.2
4 (4)	10%増量したつめかえ用のハンドソープの内容量が、増量前の何倍かを選ぶ	変化と関係	40.2	40.9	3.4	4.1

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

4 設問別調査結果 [数学]

中学校 [数学]

京都市を除く京都府一生徒（公立）

集計結果

	生徒数	学校数	平均正答率
京都府（公立）	8,537	98	48
全国（公立）	870,560	9,244	48.3

◇ 1問を除いて、無解答率が全国平均よりも低い。

◆ 正答率が全国平均を下回っている設問が9問あり、特に数学的な概念の理解を問う問題においては正答率が6割を下回っている。

分類・区分別集計結果

分類	区分	平均正答率(%)	
		京都府	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	42.5	43.5
	B 図形	46.1	46.5
	C 関数	48.2	48.2
	D データの活用	58.0	58.6
評価の観点	知識・技能	53.6	54.4
	思考・判断・表現	38.9	39.1
	主体的に学習に取り組む態度		
問題形式	選択式	52.3	54.0
	短答式	51.5	52.0
	記述式	39.6	39.6



設問別集計結果

設問番号	問題の概要	領域等	正答率		無解答率	
			府(※)	全国	府	全国
1	1から9までの数の中から素数を全て選ぶ	数と式	26.9	31.8	0.9	0.7
2	果汁40%の飲み物 a mL に含まれる果汁の量を、a を用いた式で表す	数と式	54.3	51.9	6.1	7.3
3	△ABCにおいて、∠Aの大きさが50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める	図形	56.6	58.1	1.4	2.0
4	一次関数 $y = 6x + 5$ について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	関数	33.4	34.7	6.3	8.0
5	ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める	データの活用	38.0	42.5	8.4	9.4
6 (1)	連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める	数と式	64.4	62.8	3.8	4.6
6 (2)	$3n$ と $3n+3$ の和を $2(3n+1)+1$ と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であることを説明する	数と式	23.8	25.7	22.8	24.9
6 (3)	連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する	数と式	43.0	45.2	18.6	20.2
7 (1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	データの活用	78.8	77.4	2.7	3.2
7 (2)	Aの手元のカードが「グー」、「チョキ」、「パー」、「パー」の4枚、Bの手元のカードが「グー」、「チョキ」の2枚のとき、AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する	データの活用	57.3	55.9	1.5	2.2
8 (1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅間の走行距離が分かるかを選ぶ	関数	71.5	71.9	2.0	2.3
8 (2)	A駅から60.0 km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する	関数	39.7	38.0	31.3	35.0
9 (1)	四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	図形	58.4	58.5	1.0	1.1
9 (2)	平行四辺形ABCDの辺CB、ADを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取っても、四角形AECFは平行四辺形となることの証明を完成する	図形	35.3	36.3	5.5	7.2
9 (3)	平行四辺形ABCDの辺BC、DAを延長した直線上にBE=DFとなる点E、Fを取り、辺ABと線分FCの交点をG、辺DCと線分AEの交点をHとしたとき、四角形AGCHが平行四辺形になることを証明する	図形	34.4	33.2	29.2	31.5

※府(京都市を除く)の正答率が全国の正答率より低い問題及び無解答率が全国の無解答率より高い問題についてはセルの色を で、正答率が60%未満の問題についてはセルの色を で、表示しています。

5 小学校算数科の授業改善のポイント

小学校 A 数と計算

問題 〔1(1)〕〔1(4)〕〔3(1)〕〔3(2)〕
〔3(4)〕〔4(1)〕〔4(2)〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができる

〔1(4)〕(府の正答率 76.3%、全国の正答率 74.5%)

○小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができる

〔3(1)〕(府の正答率 72.7%、全国の正答率 74.1%)

▲分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数のいくつ分かを数や言葉を用いて記述できる

〔3(2)〕(府の正答率 24.1%、全国の正答率 23.0%)

▲数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えることができる

〔3(3)〕(府の正答率 32.1%、全国の正答率 35.0%)

◎異分母の分数の加法の計算をすることができる

〔3(4)〕(府の正答率 87.1%、全国の正答率 81.3%)

解説

- ・〔3(1)〕について、小数の加法について、数を構成する単位に着目して相対的な大きさについて理解し、整数の加法に帰着し考えることはおおむねできている。
- ・〔3(2)〕について、通分することは理解しているが、共通する単位分数がいくつであるかや、それぞれの数とその単位分数のいくつ分であるかの記述ができていない児童が26.9%いる。
- ・〔3(3)〕について、1を基準として一目盛りが何分の1であるかを正しく捉えられていない児童が多い。
- ・〔3(4)〕について、異分母の分数の加法や減法の計算の技能は身に付いている。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_03.pdf

○小数や分数の計算の仕方について統合的・発展的に考察できるようにする

数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について、統合的・発展的に考察できるようにすることが大切である。例えば、分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、計算の仕方を考察する活動が考えられる。その際、分数は二つの数の関係で一つの数が表されており、構成する単位が分数によって異なることに着目する必要があることに気付くことができるようにすることが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができる

〔2(1)〕(府の正答率 60.0%、全国の正答率 58.3%)

▲台形の意味や性質について理解している

〔2(2)〕(府の正答率 53.7%、全国の正答率 50.2%)

○角の大きさについて理解している

〔2(3)〕(府の正答率 78.6%、全国の正答率 79.3%)

▲基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できる

〔2(4)〕(府の正答率 37.1%、全国の正答率 37.0%)

解説

- ・〔2(1)〕について、コンパスを用いて平行四辺形を作図する方法をおおむね理解している。
- ・〔2(2)〕について、台形の性質について半数程度の児童は理解しているが、性質ではなくおおまかな形で台形と捉えている児童も見られる。
- ・〔2(3)〕について、角の大きさを辺の開き具合として捉えることができている。
- ・〔2(4)〕について、既習の図形の面積の求め方をもとに、五角形の面積の求め方を説明することに課題がある。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_02.pdf

○既習の考えや経験を基に図形の面積の求め方を考えることができるようにする

第5学年では、第4学年における長方形や正方形の面積の学習を踏まえ、直線で囲まれた基本的な図形の面積について、必要な部分の長さを測り、既習の長方形や正方形などの面積の求め方に帰着させ、計算によって求めることができるようにすることが大切である。その上で、基本図形以外の図形の面積についても、既習の図形の面積の求め方に帰着させ、計算によって求めることができるようにすることが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる

〔4(1)〕(府の正答率 82.5%、全国の正答率 82.8%)

▲伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる

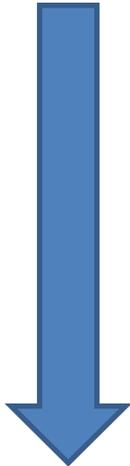
〔4(2)〕(府の正答率 52.0%、全国の正答率 48.7%)

○はかりの目盛りを読むことができる

〔4(3)〕(府の正答率 64.1%、全国の正答率 60.9%)

▲「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができる

〔4(4)〕(府の正答率 40.2%、全国の正答率 40.9%)



解説

- ・〔4(1)〕について、ハンドソープを使用する場面において伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができている。
- ・〔4(2)〕について、状況に応じて必要な数量を見いだすことができている児童が66.1%いる。
- ・〔4(3)〕について、はかりの目盛りを正しく読めている児童がおおむねであるが、最小目盛りの大きさを1gや10gといった思い込みで読む児童も見られる。
- ・〔4(4)〕について、10%が0.1であることは理解できているが、10%増量が110%であることを理解できていない児童が42.3%いる。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25pmath_idea_04.pdf

○日常生活の問題を解決するために、伴って変わる二つの数量の関係に着目し必要な数量を見いだすことができるようにする

日常生活において、ある一つの数量を調べようとするとき、その数量を直接調べるのが難しい場合は、関数の考えを用いて、その数量と関係のある他の数量を見いだすことができるようにすることが大切である。

直接調べにくい数量を求めるためにその数量と関係のある他の数量を見いだす活動も考えられる。その際、一方の数量を決めればもう一方の数量が決まるかどうか、又は、一方の数量は他の数量に伴って一定のきまりに従って変化するかどうか、というような見方で必要な数量を見いだすことができるようにすることが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

○棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる

〔1(1)〕(府の正答率 77.9%、全国の正答率 78.7%)

▲目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる

〔1(2)〕(府の正答率 32.3%、全国の正答率 31.0%)

○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる

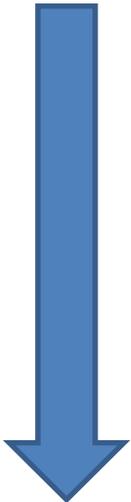
〔1(3)〕(府の正答率 70.5%、全国の正答率 71.6%)

◎伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる

〔4(1)〕(府の正答率 82.5%、全国の正答率 82.8%)

▲伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる

〔4(2)〕(府の正答率 52.0%、全国の正答率 48.7%)



解説

- ・〔1(1)〕について、棒グラフから項目間の関係を読み取ることはおおむねできている。
- ・〔1(2)〕について、2023年は2013年より増えたと判断できている児童が76.0%いるが、うち半数以上が、どこに注目したか理由を正しく表現できていない。
- ・〔1(3)〕について、二次元の表から条件に合った項目を選ぶことはできている。
- ・〔4(1)〕について、ハンドソープを使用する場面において伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができている。
- ・〔4(2)〕について、状況に応じて必要な数量を見いだすことができている児童が66.1%いる。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25math_idea_01.pdf

○目的に応じて、適切なグラフや表を選択して判断できるようにする

統計的に問題を解決する際、目的に応じて、必要なデータを収集し、適切なグラフや表を選択して判断できるようにすることが大切である。

例えば、ニュースから問いが生まれ、その問いについて調べる活動が考えられる。複数の資料から、立てた問いを解決するという目的に応じて、適切なグラフを選択し、問いを解決できるようにすることが大切である。

6 中学校数学科の授業改善のポイント

中学校 数と式

問題〔1〕〔2〕〔6(1)〕〔6(2)〕〔6(3)〕

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲素数の意味を理解しているか

〔1〕(府の正答率 26.9%、全国の正答率 31.8%)

▲数量を文字を用いた式で表すことができるか

〔2〕(府の正答率 54.3%、全国の正答率 51.9%)

○事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるか

〔6(1)〕(府の正答率 64.4%、全国の正答率 62.8%)

▲式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるか

〔6(2)〕(府の正答率 23.8%、全国の正答率 25.7%)

▲目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるか

〔6(3)〕(府の正答率 43.0%、全国の正答率 45.2%)

解説

- ・〔1〕について、1を素数と解答している生徒が55.8%おり、半数以上の生徒が1が素数に含まれると捉えていると考えられる。
- ・〔2〕について、40%が0.4であることや、(飲み物の量)×(果汁の割合)=(果汁の量)であることを理解できていない生徒がいると考えられる。
- ・〔6(1)〕について、和が9の倍数ではない2数を解答しているが、2数が連続する3の倍数でとなっていない生徒が13.2%いる。
- ・〔6(2)〕について、式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ・〔6(3)〕について、無解答の生徒が18.6%いる。記述している生徒の中でも、9の倍数であることを説明するために、式を $9 \times (\text{整数})$ の形にすればよいことを捉えられていない生徒が多い。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所 報告書(令和7年度)

○素数の意味を理解できるようにする

1とその数自身以外には約数をもたない数の集合が素数であることを理解できるように指導することが大切である。

○式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるようにする

本設問を使って授業を行う際には、まず、連続する二つの3の倍数の和がどのような数になるかを文字式を用いて考察する場面を設定することが大切である。その上で、和を計算した式を変形した式が $3 \times (\text{整数})$ となっていれば、「3の倍数である」、 $2 \times (\text{整数}) + 1$ となっていれば、「2の倍数に1を加えた数」つまり「奇数である」という結論を見いだせるように指導することが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲多角形の外角の意味を理解しているか

〔3〕(府の正答率 56.6%、全国の正答率 58.1%)

○証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるか

〔9(1)〕(府の正答率 58.4%、全国の正答率 58.5%)

▲統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるか

〔9(2)〕(府の正答率 35.3%、全国の正答率 36.3%)

▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるか

〔9(3)〕(府の正答率 34.4%、全国の正答率 33.2%)

解説

- ・〔3〕について、頂点 A における外角を 360° から頂点 A における内角を引いた角であると捉えている生徒が 30.3%いる。外角の意味を正しく理解できるよう指導することが大切である。
- ・〔9(1)〕について、すでに分かっている関係と新たに分かる関係を混同している生徒がいる。中でも、平行四辺形 ABCD の辺の関係と平行四辺形 AECF の辺の関係を混同している生徒が多い。
- ・〔9(2)〕について、書き直す部分は捉えているが、「 $AF = AD + DF$ 」、「 $EC = BC + BE$ 」と捉えることができなかつた生徒がいると考えられる。証明したことを基に、元の証明を評価・改善することを通して、条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。
- ・〔9(3)〕について、無解答の生徒が 29.2%いる。仮定や仮定から分かる事柄、結論を導くために必要な事柄を明らかにするなどして証明の方針を立て、その方針を基に推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「学習活動の例(令和7年度)」

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_09.pdf

○問題の条件を変えて共通する性質を見いだすなど、統合的・発展的に考察することができるようにする

図形の性質を考察する場面では、条件を変えても同様の性質が成り立つかどうかを検討するなど、統合的・発展的に考察することができるように指導することが大切である。

学習活動を通して、条件を変えても同様の性質が成り立つのかという疑問をもち、自分なりに探究していこうとする態度を養うことも大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるか

〔4〕(府の正答率 33.4%、全国の正答率 34.7%)

○事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるか

〔8(1)〕(府の正答率 71.5%、全国の正答率 71.9%)

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるか

〔8(2)〕(府の正答率 39.7%、全国の正答率 38.0%)

解説

- ・〔4〕について、増加量や変化の割合の意味の理解が十分でない生徒がいる。特に、 y の増加量を y の値と混同している生徒が 29.0%いる。増加量や変化の割合の意味、一次関数の変化の割合が一定であることを確認した上で、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるように指導することが大切である。
- ・〔8(1)〕について、表やグラフから読み取ったことが具体的な事象では何を表しているかを捉える活動を取り入れることが考えられる。
- ・〔8(2)〕について、無解答の生徒が 31.3%いる。様々な問題を数学を用いて解決できるようにするために、問題解決の見通しを立てる場面や、問題解決の過程や結果を振り返る場面において、数学を活用する方法を考え、説明できるように指導することが大切である。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_08.pdf

○日常生活や社会の事象における問題の解決に関数を活用できるようにする

日常生活や社会の事象における問題において、その事象を理想化したり単純化したりすることで、二つの数量の関係を比例と仮定して問題を解決できるようにすることが大切である。さらに、問題解決の過程を振り返り、日常生活や社会の事象における数量の関係を比例と仮定して問題解決することのよさなどを話し合う活動を取り入れることが考えられる。

このような活動を通して、日常生活や社会の事象の中の関数関係に着目し、問題を解決できるようにすることや、関数を活用することのよさを実感できるようにすることが大切である。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(◎、○)と課題(▲)

▲相対度数の意味を理解しているか

〔5〕(府の正答率 38.0%、全国の正答率 42.5%)

○必ず起こる事柄の確率について理解しているか

〔7(1)〕(府の正答率 78.8%、全国の正答率 77.4%)

▲不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるか

〔7(2)〕(府の正答率 57.3%、全国の正答率 55.9%)

解説

- ・〔5〕について、相対度数の意味を理解していない生徒がいる。中でも、階級の度数と混同している生徒が 18.6%いる。データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるように指導することが大切である。
- ・〔7(1)〕について、他の代表値と混同して答えている生徒が 14.2%いる。意味を正しく理解できるように指導する必要がある。
- ・〔7(2)〕について、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに引き続き課題があると考えられる。

<授業改善のポイント> 国立教育政策研究所「授業アイデア例(令和7年度)」

URL : https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25mmath_idea_07.pdf

○確率を用いることの意義やよさを実感できるようにする

起こりやすさの傾向について直観的に予想したことが正しいかどうかや、条件を変えた場合について、確率を用いて考察し判断する過程や結果を通して、確率を用いることの意義やよさを実感できるようにすることが大切である。